

家庭数



よこどっ子

千葉市立横戸小学校
〒262-0001
千葉市花見川区横戸町 1005
TEL043-259-5588
学校だより第8号
令和7年11月28日(金)



伝える力を育てるために

校 長

インフルエンザが全国的に猛威を振るっています。本校はこれまで欠席が少なく、15日の学習発表会、横小まつり当日は欠席者0名と喜んでいたところですが、翌週から欠席が増え始め、インフルエンザの報告も出ています。「すぐーる」や「ほけんだより」で健康管理についてお伝えしたところですが、来週には5年生の移動教室、全校でのやきいもフェスティバルなど、子どもたちが楽しみにしている行事が控えています。引き続き学校でも感染予防に努めてまいりますが、室内は換気をしっかり行いますので、寒くない服装、マスクの着用などご協力をお願いします。

先日の横小まつりは多くの保護者のご協力で、子どもたちの笑顔があふれる楽しい時間となりました。改めて、保護者の方々とよこどっ子のあたたかいふれあいが、子どもたちの心の栄養となっていることを実感しました。

午前中のよこど学習発表会は今年で3年目となりました。当日はそれぞれの学年で学んだことを、友達や保護者の方々に伝えました。知識はインプットするだけではなかなか定着せず、誰かに伝える、つまりアウトプットすることでしっかりと定着します。自分の思い、考えを様々な方法で「人に伝える」経験は貴重です。子どもたちの発表の準備を見ていると、今までの発表を見た経験から、人にわかりやすく伝えるにはどうしたらよいか、自ら考え、工夫する姿があちこちで見られました。自分たちの発表を友達が一生懸命聞いてくれる、おうちの方が聞いてほめてくれる、そんな経験が、次への力につながっていることを感じます。

生成AIなどが急激に進化する現代、子どもたちが身につけるべき資質・能力は何かということが話題になりますが、欠かせないのがコミュニケーション能力です。学習発表会のような「発表（プレゼン）」によるコミュニケーションの重要性は社会の中で高まっています。

もう一つ大切なのが双方向「やりとり」のコミュニケーションです。先日、5年生は「自分も相手も大切にした話し方を考えよう」をテーマに、千葉テレビからゲストティーチャーをお招きし、学ぶ機会がありました。テレビ局の方々が、言葉で伝える時に大切にしていることを知った上で、身近にあるコミュニケーションのすれ違いの場面を振り返りました。「表情で伝える」「言葉をつけ足す」「相手の気持ちを想像する」という大切なポイントを学んだ後、高跳びのマットから落ちそうになった友達に「よかったね」と言って怒らせてしまった経験を振り返り、「けがをしなくて」という言葉をつけ足せばよかったこと、相手の意図を想像することの大切さなどを考えていました。

「発表」「やりとり」どちらのコミュニケーションも、子どもたちが社会の中で生きていくためには欠かせません。生成AIが進化し、知識面では人間を超えて「相手の気持ちを想像する」力はよこどっ子も負けないでしょう。機械ではなく人だからこそ持つ力があるはずで、それを伸ばすために、人に何かを伝えられた充実感、気持ちが通い合ったときの心の温かさを経験し、心を耕してほしいと願っています。



秋の校庭
—なかよし遊び—